

## 焼岳 & 乗鞍岳山行報告

【山行日】2024年 8月 11~12日(日月)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー2台 : 20,000円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:廣瀬ナ

飯口、大塚、石澤、小林、嶋田、鈴木ミ、福島

【コースタイム】11日:岩舟支所 P3:20=登山口  
P6:30/6:50 ~ 広場 8:30/8:40 ~ 焼岳北峰  
10:15/10:55 ~ 広場下 11:50/12:00 ~ 広場下  
12:10/12:40~登山口P13:40/13:50=乗鞍観光セ  
ンター14:30/14:50=青葉荘 15:00



山行アンケートで焼岳と乗鞍岳のリクエストがあり、今回も新中の湯コースをピストンで計画した。このコースは2021年にも計画し、会では過去に数回登っている人気のコースである。5月例会で参加者を募集すると、13名参加申し込みがあった。ところがその後諸事情により、4名のキャンセルがあり9名での山行となってしまった。登山口駐車場は10台位しか駐車スペースが無く、心配なので3:00に岩舟支所出発に変更したが、遅刻者が出て20分遅れて出発する。北関東道から上信越道、長野道を走り、



松本ICで降りて国道158号線を上高地方面へ向かう。登山口にトイレが無いので、途中の石見平に寄ってトイレを済ませてから行く。新中の湯登山口駐車場に着くとすでに満車で、路肩にも多くの車が止められていた。ようやく700m位先の駐車スペースに止めら

れ、出発の準備をして登山口に向かう。登山口から登り始めは緩やかに九十九折れの道登って

行くが、段々傾斜がきつくなり木の根の階段や岩の段差を登るようになる。コマツガやシラビソ、トチ等の自然林の中を、気持ち良く歩いて行く。30分程登った所で休憩し、衣服調整や水分補給を行う。しばらく原生林の中を登り、単調な登山道に飽きてくる。やがて笹の中の平坦な道を歩くようになり、まもなく広く平坦な広場に出て休憩を取る。広場からは焼岳南峰が見え、荒々しい岩峰に歓声



上がる。ここからはヘルメットを着用し、火山灰と岩の急坂を登って行く。広場を出るとすぐに森林限界を抜け、目指す山頂を見ながらの登りにテンションが上がり足取りも軽くなる。

真っ青な空に噴煙を上げて聳える焼岳と、足元には高山植物が咲き気分爽快に登れる道だ。ところが2番手のペースが上がらなく、後から来る登山者にどんどん追い越される。2200m手前から2手



に分かれて登ることにし、SLと4人に先行して登ってもらい、我輩と3人は後からゆっくり登って行く。南峰と北峰の鞍部に出ると景色が一変し、美しいエメラルドグリーンのカルデラ湖正賀池と火口が素晴らしい。景色を楽しみながら呼吸を整え、北峰を目指して登山開始する。ここからは北アルプスを感じられる景色を見ながらの登りになる。噴煙が上がる岩場をトラバース気味に登り、上高地からの道を併せると山頂が目の前に見えてくる。最後の急な岩場を登ると傾斜が緩くなり、焼岳北峰頂上に

着く。先行した皆さんが出迎えてくれ、山頂標識の前で記念写真を撮る。山頂からは360度の展望が得られ、穂高連峰から槍ヶ岳や笠ヶ岳、明日登る乗鞍岳の展望が得られる。絶景を楽しみながらナシやゼリーをいただき、山頂南端の岩場に登って記念写真を撮る。展望を楽しんだら下山開始し、往路を戻って岩場を慎重に下って行く。南峰との鞍部でもう一度景色を楽しみ、展望が良い登山道を下って行く。広場まで下りヘルメットを脱いでランチタイムにするが、陽射しが強くて暑い為少し下って樹林帯の日陰でランチタイムにする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作るが、我輩は冷たい蕎麦にして正解だった。ランチが済んだら樹林帯の道を下り、1時間程下ると登山口に到着。ここから車まで戻り、靴を履き替えたら車に乗って宿に向かう。途中、石見平の「グレンパークさわんど」に寄るが、駐車場が満車でトイレだけ済ませて乗鞍高原に向かう。



山の日の3連休で車の数が多く、上高地方面に向かう道路は大渋滞になっていた。乗鞍観光センターに行き、明日のタクシーを探すが1台も無い。1台来たので予約できないか聞くと、乗鞍方面へはタクシーは走っていないとの返事。バスのチケット売り場に行き7時のバスの状況を聞くと、今日は10台バスが出たが乗り切れず、乗れなかったひとは8時のバスになったそうである。明日は宿の朝食を食べて8時のバスで壱平に向かう予定だったが、皆さんと相談して6時のバスに乗ることに変更した。青葉荘

に着き受付時に朝食をおにぎりに変更してもらい、部屋に案内されたら温泉に向かう。

ここは温泉と食事が美味しいので気に入っており、料金も超リーズナブルで人気の宿だ。白濁した温泉は気持ちよく、疲れた体を癒してくれる。温泉から上がったら反省会が始まり、冷えたビールを飲みながら山の話で盛り上がる。6時から夕食になり、イワナの塩焼きやカモ鍋等美味しくいただいた。夕食が済んだら部屋に戻り、明日の早出に備えて早めに床に就いた。

**12日:青葉荘 5:30=乗鞍観光センター5:40/6:05=畳平 7:05/7:20~肩の小屋 7:40/7:50~剣ヶ峰 8:40/9:10~肩の小屋 9:45/9:55~富士見岳 10:15/10:25~大黒岳 10:45/11:10~畳平 11:25/12:05=乗鞍観光センター13:00/13:20=岩舟支所 P17:40**

朝4:00に起きて窓の外を見ると星が輝いており、今日も晴天の下登れそうで安心した。1階の食



堂に行き、用意してあったおにぎり弁当をいただいて皆さんに配る。部屋に戻っておにぎり弁当を食べ、準備を整えたら車に向かう。皆さん揃っており、車に荷物を載せたら出発する。5:40に観光センターに着くと、駐車場はすでに満車で奥の臨時駐車場へ車を止める。早く支度が出来た石澤さんに乗車券を購入してもらい、バス乗り場に向かうが長い列が出来ていた。最後尾に並ぶと係の人が人数をチェックし、我々はギリギリ7号車に乗れるようだ。本日の6時発のバスは7

台しかなくて、本当にギリギリセーフで危なかった。今までこんなに混雑したことは一度も無く、家に帰ってから調べたら平湯からの乗鞍スカイラインが土砂崩れの為通行止めで、こちらのバスに集中したようだ。1時間程バスに揺られ、畳平のバスターミナルに着く。直ぐにトイレに行くが、大混雑で時間が掛かる。ストレッチを済ませたら出発し、自然環境案内所脇の階段を降りて



行く。お花畑入口を直進して階段を登ると道路に出て、右に10分程歩くと肩の小屋に着く。肩の小屋の南側に登山道入り口があり、ハイマツの中に付けられた火山性砂礫の道を登って行く。少し登ると岩がゴロゴロした急登になり、岩を落さぬ様慎重に登って行く。岩礫の道を九十九折れに登って行くと、朝日岳と蚕玉岳の鞍部に出て展望が開け、眼下に神秘的な火口湖の権現池が望め、遠方には白山連峰が望める。景色を楽しみながら呼吸を



整え、蚕玉岳を越えると剣ヶ峰は目と鼻の先だ。

この先で道が二つに分かれ、直進して登ると乗鞍本宮本殿が祀られた剣ヶ峰に着く。乗鞍岳は畳平



でバスを降り、1時間30分で山頂に立てる「誰もが登れる楽しい3000m峰」として人気が高い百名山である。3026mの山頂からは360度の大パノラマが広がり、北アルプスの穂高・槍ヶ岳連峰や先週登った御嶽山、白山等々名だたる日本百名山が見渡せる。山頂標識前で記念写真を撮るが順番待ちで、しばらく待って記念写真を撮れた。ゆっくり展望を楽しみながらフルーツケーキをいただき、それぞれが絶景をスマホに収めたら下山開始する。下山は反対側に回り込んで下り、分岐からは往路

を下って行く。登ってくる登山者と下って行く登山者のどちらも多く、前の登山者に付いて下るので時間が掛かる。ようやく肩の小屋まで下山し、トイレを済ませて行動食を食べたら富士見岳に向かう。道路を戻り10分ほど歩くと、右側に富士見岳登山口がある。砂礫の登山道にはコマクサやイワギキョウ等の花が見られ、花を楽しみながら山頂

に着く。山頂からの展望は素晴らしく、登って来た剣ヶ峰はもちろん摩利支天岳、恵比寿岳、烏帽子岳など、壮大な乗鞍岳の大パノラマが広がっている。山頂からは北側に下って行き、乗鞍エコーラインを横切るがここは車道の日本最高所である。道路を横切ると大黒岳登山口があり、急な岩と砂礫の道を登るがここにもコマクサが群生し疲れを癒してくれる。急坂を登ると大黒岳山頂の南端に登り着き、ここからの平坦な稜線歩きはパラダイスである。登山道脇にはトウヤクリンドウやイワギキョウ、ヨツバシオガマ等の花が咲



き、右前方に槍ヶ岳から穂高連峰が連なり、爽快な稜線散歩を楽しめる。大きな休憩舎が建つ山頂に着き、山頂標識前で記念写真を撮ったら休憩舎でランチタイムとする。陽射しが強く、暑さをしのげる休憩舎があり助かった。ランチが済んだら下山開始し、往路を登山口まで戻る。ここから鶴ヶ池の南側の道を通って、畳平のバスターミナルに着く。12:05発のバスに乗るが、すでに50人くらい列が出来ていた。最後尾の人を確認して、その方の後ろに並ぶ。係の方が人数確認し、我々は2号車



になり2号車の大きな札を渡された。12:05にバスが出発し、13:00に観光センターに到着する。各自飲み物を調達し、トイレを済ませたら帰路に着く。途中、いつも寄るセブンイレブンに寄り、お土産の果物を購入する。スイカや桃、シャインマスカット等が置いてあり、皆さん好みの果物をゲットした。大きなスイカを2個購入した方もあり、我輩は2個580円の桃を購入したが、今年食べた物の中

で一番甘く美味しくいただいた。ここからも渋滞などは無く高速道路も順調に走り、予定よりも早く岩舟支所へ帰着した。